瀬戸内オーシャンズＸの取組み ～連載第3回～

瀬戸内オーシャンズＸ推進協議会事務局
松 浦　正 樹

1. はじめに

瀬戸内オーシャンズX（日本財団と瀬戸内4県（岡山県、広島県、香川県、愛媛県）による海洋ごみ対策プロジェクト）は、2025年までに瀬戸内海への新たなごみの流入を70％減らし、回収量を10％以上増やすことを目標とし、瀬戸内海の海洋ごみの全体量を減少傾向に転じて問題解決へ繋げていくことを目指しています。集中連載として 2022.No.83 から瀬戸内オーシャンズXの取組みを紹介しています。今回は、日本財団・瀬戸内オーシャンズX瀬戸内海洋ごみ削減行動促進支援基金「戦略的な海洋ごみの削減・地域循環型社会形成助成プログラム」についてご紹介します。

2. 基金の概要

今回の基金については、以下のような背景・現状も踏まえ、活動を強力に支援し目標を達成するため、日本財団から5億円の支援を受け、3か年計画の「瀬戸内海洋ごみ削減行動促進・支援基金」を2022年5月に設置し、助成プログラムを開始しました。

＜背景・現状＞

○海洋ごみの約8割は陸域で発生し、ごみが川や用水路などを通じて海に流出する。一度海へ流出したごみの回収は多大な労力を要するため、陸域でごみを回収することが重要となる。日本財団が実施した大規模川ごみ調査では、瀬戸内4県の人口が集積したエリアの280（総延長1,188km, 流域人口カバー率 60％）の河川でごみが集中して散乱する箇所（ホット・スポット）が1, 711箇所確認された。また、プラスチックごみの年間流出量は200トン以上と推計される。台風や草が繁茂する時期など作業に支障がある時期を避け、懸案場所を捉えた効率的な回収活動モデルの実践が重要となる。（本誌 2022.No.83 も参照）

○市民ボランティアが清掃活動できているエリアは懸案箇所の10％程度に留まり、質・量ともに十分とは言い難い。そのため、市民ボランティアに加え、職業上のスキルや専門知識を発揮して公益的活動に参加する専門性の高いボランティア（プロボノ）と連携した活動モデルの実践が重要となる。

○一度海に流出し、アクセスが困難な海岸に漂着したごみや、海底に沈んだごみの回収は、漁業者の協力なくしては不可能である。操業時に混獲されたごみと漁獲物を船上で仕分けて陸揚げし、回収、処理をする一連の活動と、継続的に展開できるモデルづくりと実践が重要となる。

○海洋ごみになり得る発泡スチロールなどプラスチックを多用するあらゆる産業において、発生抑制策が必要とされている。瀬戸内4県または他の地域と結びあわせた循環型社会のモデルを創出し、サプライチェーンを通じて波及させていく取り組みが重要となる。

助成の対象となる団体については、本プログラムの趣旨に沿った取り組みを行う日本の団体、企業としており、自治体は除いていますが、その他幅広く対象としています。

対象となる事業の内容については、海ごみの回収か発生抑制・資源循環に資する事業としており、事業費の総額に対する助成金の補助率は、原則として 80%としています。

＜対象事業＞

(1)瀬戸内4県においての戦略的なごみ回収の推進に関する助成

・川や海での回収活動を通じた地域での担い手の育成・専門的知見・スキル向上。

・ホットスポットを踏まえた効率的なごみ回収活動、またはごみ漂流特性を踏まえた効率的な海岸ごみ回収活動、および、これらの活動に付随する自治体調整、安全管理、地元調整、実施検証、情報発信などの内容を含む事業の計画立案と実施。

・漁業操業時に混獲される海底ごみなどの回収・仕分け作業に貢献する漁業者・漁業協同組合などの支援および、これらの活動に付随する関係者の調整、情報発信などの内容を含む事業の計画立案と実施。

(2)地域循環型社会形成に関する助成

・瀬戸内4県の海洋ごみ削減に貢献しうる発生抑制、資源循環スキームの構築。

※短期(1～2年)で問題解決が見通せる活動を対象とする

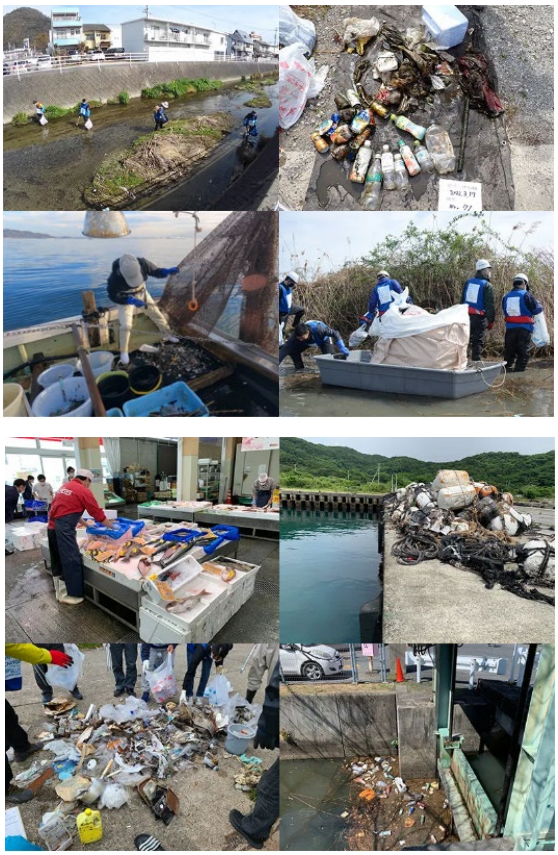

写真1　活動イメージ(上4枚は(1)下4枚は(2))

上記の要件で、令和4年度については、【第 1 期】8 月 15 日(月)～9 月 5 日(月)、【第 2 期】12 月 1 日(木)～1 月 13 日(金)の2期に分けて募集し、第1期で 16 件、第2期で 20 件の申請がありました。そのうち、活動地域や自らの特徴・課題を捉えた活動内容について第三者委員会の意見も伺いながら、第1期で 11 件、第2期で8件を採択しました。

事業の実施期間を年度で区切っていないことや、瀬戸内の気候として冬季の北西の風による漂着物を狙った回収を目的とした活動などもあり、この記事が目に触れる頃にはまだ第1期申請の事業の多くは完了していませんが、活動の一例としては、リアス式海岸のため、船でしか行けないようなアクセス困難な海岸が多くあるような愛媛県の佐田岬半島での活動があります。この地域では2つの団体を第1期で採択していますが、その中で「さだみさき海援隊」という団体は、漁師や地域住民が中心メンバーです。坂本龍馬が本家本元の「海援隊」を設立したのが 31 歳。長崎で清掃活動を行っていた代表が 31 歳になる年に、坂本龍馬のように日本を変え、漁師が海を助ける、という想いが団体の名前の由来です。瀬戸内オーシャンズXの理念や意義に共感していただき、活動を始め、活動資金が無かった中で、本基金を活用し、四国最西端の地から漁師ならではの定期的な活動を実施しています。

具体的な活動としては、陸から歩いて行ける海岸では、月1～2回の頻度で定期的な海岸清掃を実施し、また、地元漁師をメンバーに有している強みも活かして大量に海洋ごみが漂着している海岸へ船で回収に向かったり、素潜り漁師による海中清掃活動も実施しているほか、公民館等の文化祭なども利用して海洋ごみ問題の普及啓発にも取り組んでいます。その結果、地元公民館や小学校、他所で活動されている清掃団体などと連携した活動のオファーを受けるなど、着実に地元での理解を深めており、瀬戸内オーシャンズ X としても今後の活動の発展に期待しています。

図1　さだみさき海援隊活動エリア（国土地理院地図に図形を追記）

写真2　活動エリア周辺の海底に堆積したペットボトル

写真3　活動エリアの海岸に漂着・散乱した海洋ごみ

写真4　清掃後の集合写真

図2　さだみさき海援隊公式マスコット

令和5年度についても、募集時期は令和4年度での時期と前後する可能性はありますが、2期に分けて募集する予定としています。今年度については、ごみ回収に関する申請がほとんどでしたが、そもそもの海洋ごみの発生抑制に貢献しうる活動の方こそ、今後の海洋ごみ対策に重要なところですので循環型社会形成に関する申請もお待ちしております。

瀬戸内海洋ごみ削減行動促進・支援基金HP（https://fund.setouchi-oceansx.jp/）